Date

県内経済〈８月〉

概　況　県内経済は、全体として回復の動きが足踏みしている

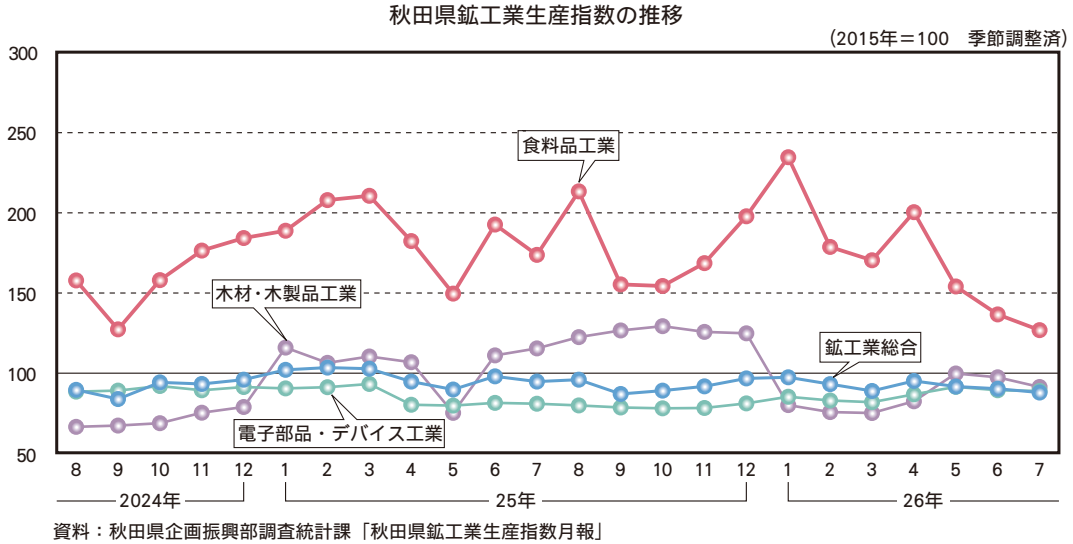
電子部品は前年を上回ったものの、機械金属は減少に転じ、木材は製材品で前年を下回った。建設は、公共工事、住宅着工ともに前年を下回った。個人消費は全体として緩やかに回復している。雇用情勢は弱い動きとなっている。

産業別の動向では、電子部品の生産額は、ＡＩ関連の需要拡大にともない、データセンター向けのＨＤＤ部品の生産が増加し、15か月連続で前年を上回った。機械金属は、ウエイトの高い輸送機械で、国内メーカーの車種生産終了による影響から、２か月ぶりに前年を下回った。木材の生産量は、普通合板（７月）は２か月連続で前年を上回った。製材品は８か月連続で前年を下回った。公共工事請負額は、３か月連続で前年を下回った。地元大手（12社）の建設受注額は、官公庁工事、民間工事ともに大口工事の受注があり、２か月連続で前年を上回った。住宅着工は２か月連続で前年を下回った。個人消費は、小売店販売額（７月）が２か月連続で前年を下回ったものの、新車乗用車販売台数は４月からの自動車税「環境性能割」廃止などにより、５か月連続で前年を上回るなど、全体として緩やかに回復している。

有効求人倍率は前月比0.04ポイント低下の1.13倍となった。新規求人数は前年比9.3％減と７か月連続で前年を下回った。事業主都合離職者数は前年比57.3％減と２か月ぶりに前年を下回った。

企業倒産件数は３件、負債総額は３億2,100万円であった。

秋田県鉱工業生産指数の推移



資料：秋田県企画振興部調査統計課「秋田県鉱工業生産指数月報」

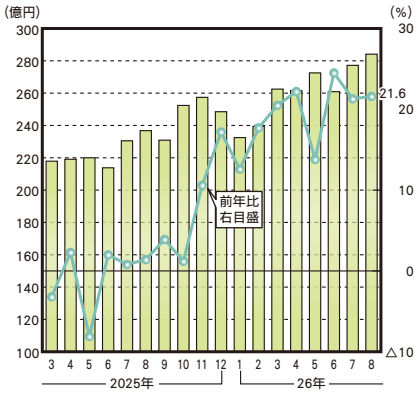
電子部品　生産額、高水準続く

８月の生産額は前年比21.6%増となり、15か月連続で前年実績を上回った。

車載向けはＥＶ市場の低迷により減少傾向にあるものの、ＡＩ関連の需要拡大にともない、データセンター向けのＨＤＤ部品の生産が増加し、総体では活況が続いている。

その他品目別では、コンデンサは増加が続いている。液晶パネルは前年の反動から減少に転じ、半導体素子は一進一退の状況にある。

電子部品の生産額推移



（当研究所調べ、県内4社）

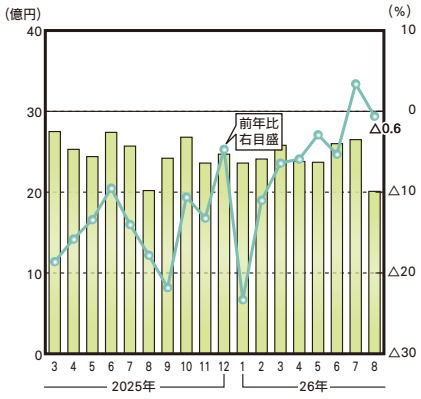
機械金属　生産額、減少に転じる

８月の生産額は前年比0.6%減となり、２か月ぶりに前年実績を下回った。

ウエイトの高い輸送機械で、国内メーカーの車種生産終了の影響から低迷が続いている。低迷の影響が一巡し減少幅は縮小傾向にあるものの、回復には至っておらず、弱い動きとなっている。その他民需関連では、産業機械は増加に転じている。建機部品は持ち直しの動きがみられ、金型は一進一退の状況にある。

公共工事関連では、橋梁・鉄骨は堅調に推移し、水道部品は一進一退の状況にある。

機械金属の生産額推移



（当研究所調べ、県内8社）

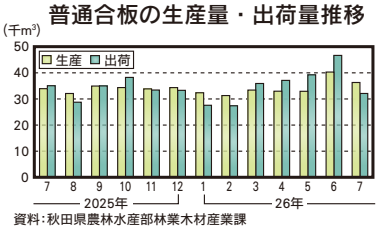
木 材 業　合板の生産が２か月連続で前年比増加

全国的に住宅着工の減少等により木材需要が低迷する中、本県では年初以降、合板、製材とも生産が前年比減少で推移していたが、合板の生産が２か月連続で前年比増加となった。

７月の普通合板は、生産量は前年比7.0%増と２か月連続で前年を上回った。出荷量は同8.4%減と３か月ぶりに減少となった。2026年１月から生産の前年比減少が続いていたが、４～６月の新設住宅着工（全国）が前年同期に減少した反動で前年比増加となったこと等から生産が上向いている。

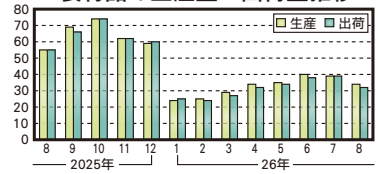
８月の製材品は、生産量が前年比38.2%減、出荷量が同41.8%減と、ともに８か月連続で前年比減少となった。

普通合板の生産量・出荷量推移



資料：秋田県農林水産部林業木材産業課

製材品の生産量・出荷量推移

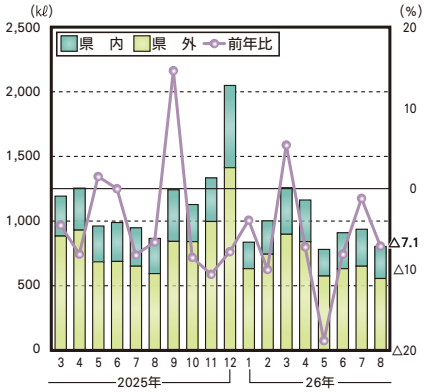


資料：農林水産省「製材統計」

酒造業　出荷量、５か月連続で前年比減少

８月の清酒出荷量は、前年比7.1%減となった。一部メーカーによる商品価格の引上げに加え猛暑の影響もあり、５か月連続で前年を下回った。出荷先別では、県内向けは同8.9%減、県外向けも同6.3%減と、ともに前年を下回った。県外の主な出荷先別では、東京都が同27.7%増、北海道は同17.8%増となったものの、東北５県は同6.1%減、その他の府県は同31.5%減と前年を大幅に下回った。種類別では、普通酒は同6.9%減、特定名称酒も同7.3%減となった。特定名称酒の内訳では、本醸造酒が同10.1%減、純米酒は同6.3%減、吟醸酒も同7.4%減と、いずれも前年を下回った。

県産酒の出荷量推移



資料：秋田県酒造組合

建設業　公共工事　国、県等が減少し前年を下回る

８月の公共工事請負金額は、市町村が前年比増加したものの、国、独立行政法人、県が減少し、総体では前年比2.5%減と３か月連続で前年を下回った。

一方、当研究所調査による地元大手12社の８月の新規受注額は、前年比71.8%増の2,597百万円となり２か月連続で前年を上回った。

うち官公庁工事は、公共施設解体や道路改良等の大口工事があり、同30.3%増となった。民間工事も、製造業の工場建設等の大口工事の受注があり、同445.0%増と前年を上回った。

公共工事前払金保証実績

（単位：件、百万円、%）

区　分	８月	前年比	４～８月	前年同期比
件　数	203	△15.8	1,274	△4.1
請負金額	12,503	△2.5	105,488	△15.5

資料：東日本建設業保証㈱秋田支店

地元大手企業12社受注額

（単位：百万円、%）

区　分	８月	前年比	４～８月	前年同期比
官公庁	1,774	30.3	7,985	△14.5
民　間	823	445.0	1,900	△31.9
合　計	2,597	71.8	9,885	△18.5

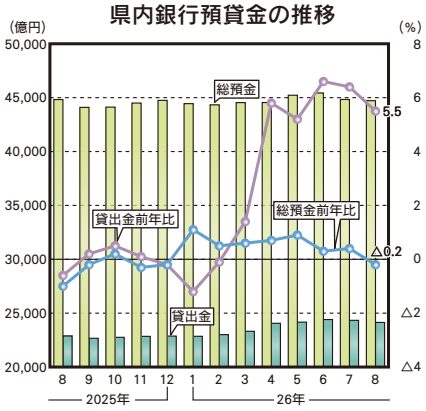
（当研究所調べ、県内12社）

金　融　貸出金、前年比増加続く

８月末の県内銀行の預金は、前月末比113億円減少し、前年比でも0.2%の減少となった。貸出金は、前月末比194億円減少したものの、前年比では5.5%の増加となった。預金は８か月ぶりに前年を下回った一方で、貸出金は６か月連続で前年を上回った。

８月の倒産件数（負債総額１千万円以上）は３件（前年比横這い）、負債総額は３億2,100万円（同27.7%減）となった。倒産件数は例年程度の発生水準となり小康状態にあるものの、経営環境は依然として厳しい状況が続いている。負債総額は、本年最多となった前月の反動から大幅に減少した。

県内銀行預貸金の推移



資料：秋田県銀行協会

住宅着工

着工戸数、２か月連続で前年比減少

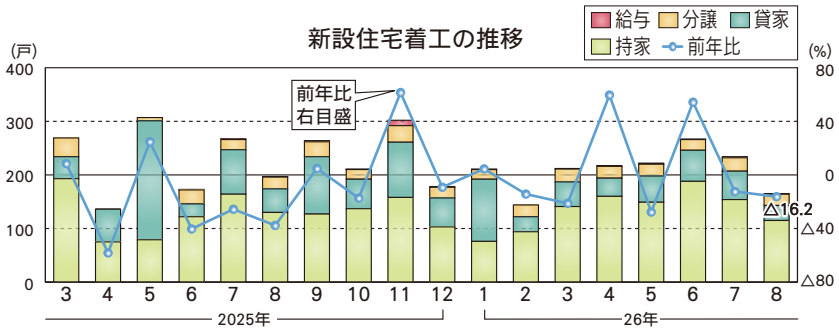
８月の県内新設住宅着工戸数は、165戸（前年比32戸減、16.2%減）であった。給与住宅は横這いとなったものの、持家、貸家、分譲住宅が減少し、２か月連続で前年を下回った。

利用関係別では、持家が115戸（前年比15戸減）、貸家が28戸（同16戸減）、分譲住宅が21戸（同１戸減）、給与住宅が１戸（同横這い）となった。

持家は２か月連続で前年を下回った。貸家は、秋田市と横手市で増加したものの、鹿角地域で大幅に減少し、２か月連続で前年を下回った。分譲住宅は、戸建が減少し、２か月ぶりに前年を下回った。

地域別では、全地域で持家の着工が減少したほか、県北は貸家の着工、県央は分譲住宅の着工もそれぞれ減少した。一方で、県南は貸家の着工が増加した。

新設住宅着工の推移



資料：秋田県建築住宅課

住宅着工動向

（単位：戸、%）

区分	2026年8月	前年比	26年1~8月	前年比
県北	19	△58.7	201	△23.9
県央	107	△6.1	1,108	1.4
県南	39	5.4	363	0.3
合計	165	△16.2	1,672	△2.7

資料：秋田県建築住宅課

個人消費

全体として緩やかに回復している

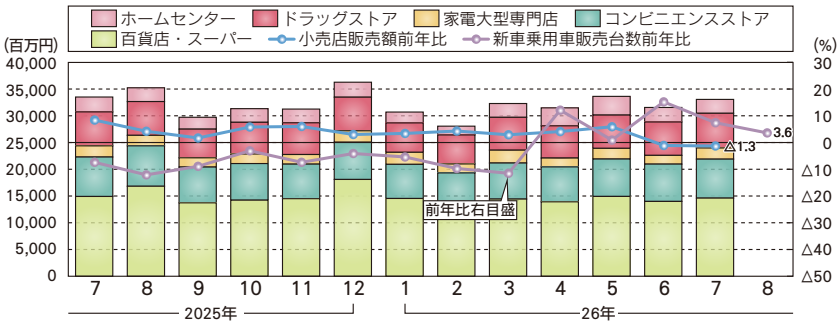
７月の小売店（商業動態統計主要６業態）販売額は、前年比1.3%減となり、２か月連続で前年を下回った。

内訳をみると、ドラッグストア（前年比2.1%増）、家電大型専門店（同0.2%増）は前年を上回ったが、ホームセンター（同6.7%減）、百貨店・スーパー（同2.1%減）、コンビニエンスストア（同1.2%減）は前年を下回った。

８月の新車乗用車販売台数は、４月からの自動車税「環境性能割」廃止や電気自動車等への補助金支給などにより、前年比3.6%増と５か月連続で前年を上回った。

内訳をみると、軽乗用車は前年比0.8%減と３か月ぶりに前年を下回ったものの、登録車は同6.7%増と５か月連続で前年を上回った。

小売店（商業動態統計主要６業態）販売額・新車乗用車販売台数の推移



資料：経済産業省、秋田県自動車販売店協会

８月の新車乗用車販売台数（単位：台、%）

区分			販売台数	前年比
新車乗用車総販売台数			1,941	3.6
	登録車		1,169	6.7
		普通車	626	3.8
		小型車	504	11.3
		輸入車	39	△2.5
	軽乗用車		772	△0.8

資料：秋田県自動車販売店協会

県内個人消費関連指標（前年比）（単位：%）

区分	2026年5月	6月	7月
①消費者物価指数	1.7	2.1	2.8
②勤労者名目賃金	6.2	24.6	10.8

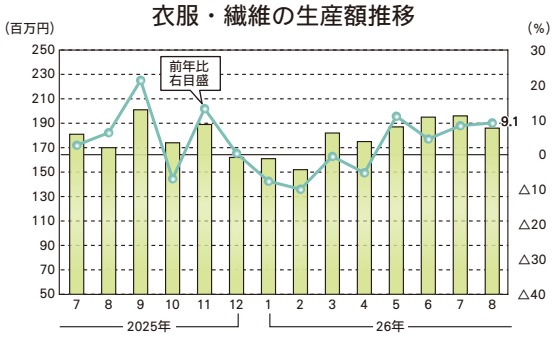
資料：①秋田県（総合指数、秋田市）
②秋田県（事業所規模５人以上）

衣服･繊維　生産額、４か月連続で前年比増加

８月の生産額は、前年比9.1%増となった。カジュアル系の夏物衣料が好調に推移したことなどから、４か月連続で前年を上回った。

受注は、秋冬物が堅調だったことなどから、４か月連続で前年を上回った。一方、最低賃金の改定を受け、メーカーとの工賃引上げ交渉が急務である。

衣服・繊維の生産額推移



(当研究所調べ、県内4社)

雇　用　弱い動き

８月の有効求人倍率（季調値）は、前月比0.04ポイント低下の1.13倍となった。常用の内訳では、一般は同0.03ポイント上昇の1.38倍、パートは同0.04ポイント上昇の0.75倍となった。

新規求人数は前年比9.3%減となり、７か月連続で前年を下回った。産業別にみると、製造業は同10.1%増となった。「食料品」などで減少したものの、「電子部品・デバイス・電子回路」「電気機械器具」で生成ＡＩ関連の半導体需要拡大を背景に増加した。非製造業は同11.7%減となった。「建設」などで増加したものの、「宿泊, 飲食サービス」のうち全国展開している飲食サービス業で求人条件見直しのため減少したほか、「医療, 福祉」でも採用が一定程度進んだことなどから減少した。

新規求職者数は前年比1.8%減となり、３か月ぶりに前年を下回った。

事業主都合離職者数は前年比57.3%減となり、２か月ぶりに前年を下回った。

地域別雇用状況（パートを含む常用）をみると、新規求人数は県南で増加したが、県北、県央で減少した。有効求人倍率は県北が最も高く1.33倍、県南が1.12倍、県央が1.04倍となった。

業種別・新規求人内訳および新規求職者数（全数）

(単位：人、%)

区分		2026年７月	前年比	８月	前年比
新規求人計		7,304	△0.6	5,936	△9.3
主要業種の内訳	製造業	963	23.0	786	10.1
	食料品	128	△11.7	111	△13.3
	繊維	126	24.8	83	△14.4
	木材・木製品	31	6.9	27	22.7
	金属製品	81	72.3	58	△10.8
	電子部品･ﾃﾞﾊﾞｲｽ･電子回路	144	34.6	143	49.0
	電気機械器具	57	21.3	73	92.1
	非製造業	6,341	△3.4	5,150	△11.7
	建設	917	△6.8	865	1.4
	運輸，郵便	340	△9.6	315	△10.3
	卸売，小売	862	△9.0	693	△14.3
	宿泊，飲食ｻｰﾋﾞｽ	801	40.0	343	△43.6
	生活関連ｻｰﾋﾞｽ,娯楽	235	3.1	189	△7.4
	教育，学習支援	93	△41.5	141	135.0
	医療，福祉	1,402	△3.2	1,189	△13.6
	サービス	903	△9.2	796	△17.3
新規求職者数		3,401	6.8	2,965	△1.8
有効求職者数		15,948	0.9	15,356	1.7

資料：秋田労働局職業安定課
（注）臨時・季節を含む

有効求人倍率および事業主都合離職者数

(単位：倍、人、%)

区分			2026年５月	６月	７月	８月
有効求人倍率	常用	一般	1.26	1.31	1.35	1.38
		パートタイム	0.66	0.65	0.71	0.75
	全数（季調値）		1.14	1.15	1.17	1.13
事業主都合離職者数			118	109	246	112
	前年比		△22.9	△8.4	43.9	△57.3

８月の地域別雇用状況（パートを含む常用）

(単位：人、%、倍、ポイント)

区分	新規求人数		有効求人倍率	
		前年比		前月比
県北	1,386	△3.8	1.33	0.05
県央	2,505	△19.4	1.04	0.02
県南	1,496	3.5	1.12	0.07
合計	5,387	△10.1	1.12	0.04

(注) 臨時・季節を除く